

令和6年度 秋田県健康づくり審議会 がん対策分科会

議事概要

1 日 時 令和7年3月10日（月）18時30分～20時
※オンライン開催

2 委員の出席 出席委員数：12
欠席委員数：4

3 議 事

（1）分科会長選出

（2）令和6年度健康づくり審議会 がん対策分科会 各部会の開催状況について

（3）がん対策の取組について

議 事

（開会宣言、健康福祉部次長あいさつに引き続き、秋田県健康づくり推進条例の規定に基づき議事（１）分科会長選出が行われ、伊藤伸一委員が分科会長に選出された。また、分科会長は安藤秀明委員を分科会長職務代理者に指名した。）

議事（２）令和６年度健康づくり審議会 がん対策分科会 各部会の開催状況について

- 事務局 （資料１に基づき説明）

議事（３）がん対策の取組について

- 事務局 （資料２～４に基づき説明）
- 分科会長 秋田県は死亡率が高く、特に胃がんに関してはワーストであり、全体のデータもあまり良くない。全国の死亡の年次推移と全国順位についても、全死亡、胃、胆のう等についてワーストが続いており、精検受診率に関しては大腸が低いとの報告であった。がん検診受診率では市町村間の差も問題になると思うがいかがか。
- 柴田委員 地域差に関しては、どのような要因が関与しているか、もう少し分析が必要だと思う。
- 伊藤善信委員 秋田市では、女性に関してはレディース検診などを行っており、子宮頸がんや乳がんの受診率はある程度高い。男性の胃がん、大腸がん、肺がん検診の受診率が低いため、受診率向上のための検討をしていかなければならない。胃がんについては、内視鏡検診を含めて受診者が一定程度いるが、もう少し受診率を高める工夫が必要だと思っている。
- 秋山委員 治療がある程度終了した方や、高齢で治療を受けない方を診ているが、やはり胃がん等の消化器系や肝胆膵が多いという印象がある。受診率の地域差については、例えば、受診率が高い大潟村や藤里町では、何か取組がなされていると思われるので、他の自治体で参考にできたらよいのではないかと思います。
- 分科会長 大潟村や藤里町はがん検診の受診率が高いため、何か工夫されていることがあるのか確認したいと思う。北秋田市の鈴木委員はいかがか。
- 鈴木雅昭委員 当市でも受診勧奨を進めているが、受診率はなかなか上がらない。さまざまな工夫をして周知しているが、向上しないため、先進的な取組があれば参考にしたい。受診勧奨の仕方については、来年度以降、事業者をサポートしていただきながら取り組むこととしており、少しでも受診率向上につながればよいと思っている。
- 田中委員 秋田市の中では、乳がんと子宮頸がんの受診率が高いということに関してだが、女性はロコミであったり、マスコミががんについて取り上げた際に、

情報交換をしたりして受診につながることもあると感じた。男性はそのような話をあまりしない印象があるが、女性に関しては、口コミ等の力をもっと生かすことができればよいと感じた。大潟村の取組をテレビで見たが、コミュニティの力で受診率を上げていると感じたので、取組の参考になるのではないかと思う。

- **鈴木敏文委員** 例えば秋田市においては、がん検診だけをみると受診率が低くなっているが、病院で定期的に検査している人を含めると、それほど低くないのではないか。
- **事務局** 市町村検診の受診率であるため、分母は全住民だが、その中で市町村検診を受けた方が対象となっており、職域の方は含まれていない。そのようなことを含めて、地域差が出ることはやむを得ないものと考えている。
- **和田委員** 将来的には、年齢別の受診率を出すことができればよいと思っている。高齢の方は体力に自信がなく、受診率が高い一方で、若い方の受診率が低い傾向というのはどうしてもあると思う。受診率を上げるためには、年齢別に広報した方が効果的だと考えており、若い方にはSNSやメディアを活用した広報、高齢の方にはコミュニティや直接の口コミがより有効だと思うため、年齢別の受診率を算出できればよい。
- **分科会長** とても大切なことである。広報等に力を入れていかなければ、受診率向上にはなかなか結びつかないため、今後、各部会でも検討していただきたい。
- **田中委員** オンラインの相談支援の話題があったが、きぼうの虹では、本年1月からオンラインのがんサロンを始めた。数名の患者さんに参加していただいております、病院でもそういったことを積極的に進めていただければと感じている。がん教育に関してだが、県で選定した学校の他に、個別に依頼する学校も増えてきている。がん計画における目標値である40校は難しいかもしれないが、来年度はもう少し増えるのではないかと期待しているところである。
- **分科会長** 安藤委員ががん教育にかなり力を入れておられる。これからはオンラインでの教育も必要になってくるため、来年度以降、進めていただければと思う。
- **和田委員** がん診療機能等強化事業の申請方法はどのようになるのか。今、県内で放射線治療施設が10施設あり、各施設で最新の装置に更新しているが、高精度照射を行うためには、経験のある医師を派遣する必要がある。現在、大学病院から県内の5病院ほどに派遣しているが、大学内の業務が逼迫している。補助があれば、人材を強化して、県内のより広い範囲で高精度放射線治療が可能となるよう体制強化を図りたいと考えている。
- **事務局** ②緩和医療機能強化事業及び③がんゲノム医療機能強化事業については、医務薬事課が担当している地域医療介護総合確保基金を活用しており、申請を受けて実施しているものである。申請期間は毎年夏頃となっており、審査を経て翌年度の事業として実施されるというものである。
- **分科会長** 地域医療介護総合確保基金については、8月頃に個票を作成して概算の要求をし、基金の委員会で協議され、最終的に議会で承認されれば採択となる。

医務薬事課から提出方法等の情報が得られる。がんゲノム医療機能強化事業は柴田委員が関わっておられると思うが、いかがか。

- **柴田委員** がんゲノム医療は令和元年から保険収載され、進行がんの患者に化学療法を行っているが、進行がんになると治療が困難な現状は変わらないと思う。ただ、新しい分子標的薬が出てきており、遺伝子検査の結果、分子標的薬を見つけることにより、かなり成績が向上しているが、検査を受けなければ薬にアクセスできないという状況にある。私が調べた範囲では、県中心部と周辺部とでは、がんゲノム検査の認知度や患者の紹介の度合いに差がある。秋田県と東北の先進地域である宮城県を比べても差があるのだが、今の新しい流れに、秋田県の特に中心部ではないところは取り残されつつあるという現状がある。全ての医療は地域格差が出てくるのだが、腫瘍内科医は秋田大学と秋田赤十字病院にしかいない状況にある。進行がん患者は移動ができない上、長期に治療する必要があるため、まずは進行がんの段階から患者に関わり、標準治療が困難となった段階でゲノム検査を勧めることを提案し、今回、県から認めてもらったという経緯がある。
- **分科会長** 柴田委員を中心に、ぜひ本事業を進めていただきたい。
- **伊藤善信委員** 資料4の多目的コホート研究事業について、横手保健所長を務めた際に関わっており、講演会等を開催した。生活習慣とがんなどの病気との関係を明らかにするための疫学調査という目的はわかるが、県民に対し、どの程度がん予防等の啓発につながっているかについての評価は行われているのか。
- **事務局** 本事業の取組結果等については、講演会という形で県民に向けて発信しているが、啓発の評価は難しいところであり、今後、評価に関して検討を進めていきたい。
- **伊藤善信委員** 本県で長期にわたり調査が行われたものとして、昭和時代に脳卒中对策事業というものがあり、10～20年続いたが、さまざまな市町村において取組がなされ、力を入れて実施していた。多目的コホート研究事業は横手市に限定した疫学調査なので、定点調査は大事かもしれないが、工夫していかなければ、研究のための研究に力を貸しているという気がする。30年以上経過している事業なので、新たな視点で考えたり、評価を行って別の事業に切り替えたりすることも検討していただきたい。
- **事務局** 国立がん研究センターからの受託事業ということで、横手市で継続的に調査を実施していくこととなり、事業のスキームについては県から申し上げにくいくところもあると思うが、いただいた御意見を国にも伝えながら実施について考えていきたい。
- **分科会長** 横手市で実施したとしても、秋田県民のために調査結果を還元しなければならないというところもある。何十年も実施されているということであれば、事業の終了時期について考えなければならないという印象を持ったが、いかがか。
- **事務局** 本事業は国立がん研究センターからの受託事業であるため、事業費は全て国が負担している。事業内容についても枠組みが示されており、終期は令和

13年となっている。横手市を含め全国11保健所において実施されており、得られた結果については県民の方々に伝えていきたいと考えているため、御理解いただきたい。

- **伊藤善信委員** 国立がん研究センターの受託事業ということはわかるが、何人かの職員が当該事業に時間をかけており、人件費を投じているため、別の事業を考えてもよいのではないかとということで申し上げた。検討していただければと思う。
- **秋山委員** 緩和ケア推進事業についてだが、コロナが5類に分類され、久しぶりの開催となった。ケアマネージャーも参加され、地域での連携や顔の見える関係づくりができ、非常に有意義な交流となったという実感があるので、ぜひ継続していただきたい。もう1点、緩和医療機能強化事業費補助の専門医の派遣について、具体的にどのようなイメージなのか。
- **事務局** 緩和ケアセンター機能をもつ施設を県北、県南に設けることを目標として今年度から開始した事業である。緩和医療に係る指導・助言等を行うために、がん診療連携拠点病院等へ派遣する医師を、秋田大学医学部附属病院緩和ケアセンターへ配置するために要する経費に対して助成するもので、3年間の計画となっている。
- **秋山委員** ピアレビューのことではないかと感じた。大曲厚生医療センターにおいて一度受けたことがあるが、なかなか手挙げする病院がない。大掛かりなことでもなくてもよいので、ぜひ指導の体制をつくっていただきたい。
- **分科会長** 本事業を有効な形で進めていただきたい。
- **白川委員** がん検診の助成事業についてだが、対象年齢の方の検診費用に対して助成しているが、助成をすれば受診率が上がるのか。また、対象年齢以外では受診率が下がるということはあるのか。
- **事務局** 他の年代よりも罹患率が高まることが確認できているため、当該対象年齢に補助しているものである。
- **白川委員** 助成していただけるのはよいことだが、自己負担の軽減がなくても受診継続につながればよいと思う。助成対象年齢以外の方の受診率が下がるのだとすれば、受診継続につながっていないのではないかと思いお聞きした。
- **事務局** 助成対象外となったときに受診をしなくなる懸念はあるが、まずは罹患率の高い年代に着目して対象年齢時に受けていただき、対象年齢以外の方についても、受診の重要性を伝えることにより、継続受診につなげられるよう取り組んでいきたい。
- **白川委員** 助成対象年齢外では受診率が下がるのか教えてほしい。
- **事務局** 助成対象となる年齢では、他の年齢と比べて受診率は高くなっている。助成対象年齢外となったときに受診をしなくなる懸念はあるが、まずは罹患率の高い年代の方に受診していただくことを目的に始めた事業であるため、このような形で進めたいと考えている。
- **白川委員** 承知した。今後も引き続きお願いしたい。

- **分科会長** かかりつけ医から受診勧奨を行う検診受診促進事業も実施されているため、助成の対象外となる方には、こうした事業も活用しながら受診を促すとよいのではないかと。全ての年代に対して助成することはできないため、まずは罹患率の高い年代に対して積極的に受診を促進していくということである。今野委員はいかがか。
- **今野委員** がんとの共生の部分で、多くの取組を継続していただきありがたい。特に若い世代では、妊孕性に関することや若年がん患者の在宅支援の取組が継続されている。もっと活用していただけるように、こちらでも推進していく必要があると感じている。一方で、秋田県は高齢者が多いため、高齢者の支援に関しては、医療だけではなく介護・福祉の方々との交流の場を持ちながら、連携して取り組んでいけるような機会を、県としても検討していただければありがたい。
- **分科会長** 秋田大学では、がん治療と仕事の両立支援についても取り組んでいた。こういったところも含めて、アドバイスや支援を進めていただくようお願いしたい。
- **三浦委員** 歯科医師としては、がん検診の受診率向上には貢献できないかもしれないが、例えば患者の口の中を診ると喫煙者かどうか分かるので、がんを含めた害を説明できる。がん教育もされているようだが、例えば女子中高生などは、2、3か月から半年以内に歯のクリーニングに来るため、子宮頸がんワクチンのポスターやパンフレットがあるのであれば、力添えができるのではないかと考えている。どちらかという、周術期において口腔内をきれいにしておいて感染を少しでも予防することに関しては支援できると思うが、受診率を上げることに寄与できないかもしれないが、少しずつ支援できればと考えている。
- **事務局** 歯科医師会には、今年度から受診勧奨ポスターの掲示に御協力いただいております。感謝申し上げます。また、子宮頸がんワクチンに関しても、周知に御協力いただける場合には、健康福祉部内の他課とも連携し、後ほど改めてお願いしたいと考えているのでよろしくお願いしたい。
- **三浦委員** 承知した。
- **分科会長** 口腔ケアをしっかりと行うことによって、がん予防、特に食道がんの予防になるため、指導についてよろしくお願いしたい。
- **事務局** 資料4のタイトルに、「令和7年度の秋田県のがん対策に関する主な取組について（案）」とあるが、先日議会で議決されたため、この事業内容で進めていく。皆様からの御協力をよろしくお願いしたい。
- **分科会長** 他に意見等がなければ、以上で議事を終了する

閉会